

自己評価及び外部評価結果報告書

訪問調査日	令和2年10月23日
調査実施の時間	開始 10時 20分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム なごみの郷 (愛知県)
-------------------	------------------------

外部評価機関名	外部評価機関 株式会社 中部評価センター
事業所対応者	職名 施設長 管理者 氏名 太田 和敬 小松 正寛 ヒアリングを行った職員数 (2) 人

※記入方法
●「外部評価」の「実施状況」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
●「外部評価」の「次のステップに向けて期待したい内容」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる事項を記載してください。

※外部評価軽減要件について
●「評価」欄には、別に定めた要件どおり実施している場合には、○印を付してください。
●軽減要件適用事業所が聞き取り調査を受け、要件どおりの実施が確認できた場合には、◎印を付してください。

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 事業所と地域とのつきあい
3. 運営推進会議を活かした取組み
4. 市町村との連携
5. 身体拘束をしないケアの実践
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映
7. 運営に関する職員意見の反映

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 馴染みの人や場との関係継続の支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 思いやりや意向の把握
2. チームでつくる介護計画とモニタリング
3. かかりつけ医の受診診断
4. 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援
5. 災害対策

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保
2. 食事を楽しむことのできる支援
3. 排泄の自立支援
4. 入浴を楽しむことのできる支援
5. 日常的な外出支援
6. 居心地のよい共用空間づくり
7. 居心地よく過ごせる居室の配慮

市町村受理確認欄

年 月 日 印



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300088		
法人名	社会福祉法人 和敬会		
事業所名	グループホーム なごみの郷 あやめユニット		
所在地	愛知県蒲郡市柏原町加治替戸3番地1		
自己評価作成日	令和 2年10月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.nhlw.go.jp/23/Index.php?action=kouhou_detaj_022_kan=true&JigyosyoCd=2393300088-00&ServiceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が地域や社会との関わりを継続し維持できるように社会の空気に触れられる時間を増やすため、外出や買い物、近所の散歩等外へ出る機会を積極的に増やし、一人ひとりの希望や要望を叶えていくよう支援しています。
 コロナウイルスの影響で4月からの開催予定が延期となっているが、認知症café「シャイン」の実施に向けて取り組んでいます。認知症に対する理解が深まる他に、認知症の利用者自身がカフェの店員となり、認知症の人でも輝ける場所があるということを地域の皆様に理解し発信できる場所を作り、認知症になったら輝けないという世間のマイナスなイメージを根本的に一新したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新たなアイデアや試みで、利用者の「おだやかな生きるを支えたい」という複合施設全体の理念を実践している。面会自粛の中、全国初のWeb面会を導入し、利用者や家族の不安要素を解消している。外出自粛の中、バーベキューやバイク形式で食事を提供するなど、利用者も一緒に調理・食事ができる機会をつくり、ホーム内での生活が楽しくなるように努めている。複合施設全体でリモート運動会を行い、新たな試みとして、「オンライン診療実証試験施設」としての参加も決まっている。
 「マチュピチュに行きたい」という利用者の要望に対し、写真をジグソーパズルとして利用者へ提供し、頭と手指と感覚を使ってパズルを完成し、マチュピチュに行った気分になってもらうなど、アイデアを持って利用者へ接している。個別支援で陶芸作品創りに出掛けた利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナウイルスの影響で今年度はキックオフミーティングが開催できなかったが、「おだやかな生きるを支えたい」の理念に沿った支援を共有し実施し取り組んでいる。	今年度のホーム目標を「認知症状の知識の向上」とし、会議や勉強会を通して知識・介護技術を習得している。利用者の状態に合った支援を行うことで、法人理念である「おだやかな生きるを支えたい」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育園とは行事の際に保育園へ出向いたりしている。小中学校では、職場体験等受け入れ交流を図っている。地元地域とは、祭り事などごみの郷で笛や太鼓の披露、成年育成事業ではみなさんとランドゴルフを楽しまれている。	自粛中のため、地域交流は日課の散歩での挨拶程度となっている。中断していた訪問美容や歯科往診を再開し、今後は状況を見てボランティアの受入れや認知症カフェ「シャイン」の再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響で未だ開催できていないが、カフェ「シャイン」を通し、認知症の理解を深め誤解を解くだけでなく、輝きを発信する予定。利用者がカフェの店員となり認知症でも輝ける事で認知症に対するマイナスイメージを一新したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、取組等の状況を共有することで、事業所の理解だけではなく介護サービスの理解向上にもなっている。また、会議から上がりの意見により、認知症カフェのヒントを得たりすることもできている。	市からの通知により、4月から書面開催として会議メンバーに議事録を送付している。ホームの運営情報等を提供して提案・意見を収集し、防災対策や認知症カフェの開催に関するアドバイスも得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から市から密な連携がとれている。コロナウイルスに関する対応についても、必要物資の調整のやり取りなど、密な連携により情報共有が行われる事で、市の協力により事業所運営に役立っている。	施設長が社会福祉審議会の役員を務めることから、有益な情報収集ができており、東三河広域連合や市とも良好な連携が取られている。地域包括支援センターとも連携し、認知所カフェの再開を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2度身体拘束に関する研修を行っている他、3ヶ月に1度各ユニットで身体拘束に対しての会議を設け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	複合施設全体で3ヶ月毎に身体拘束防止対策委員会を開催している。ユニット会議等を利用して、虐待やスピーチロックなどを含めた身体拘束などをテーマに年2回の研修を行い、「身体拘束をしない介護」に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に対し学ぶ機会を今後設けていきたいと思う。事業所内では不適切な対応や声掛けがみられた場合、注意しあい意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や青年後見制度を活用している対象者は居ないが知識を学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っている。不安や疑問点があればその都度説明を行い理解や納得をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や、電話、メールを使用し気楽に意見や要望を聞くように努めている。また、ご意見受付表や苦情受付簿も置いている。	管理者・職員と利用者家族との関係性は良好で、直接意見・要望が言える環境が作られている。「通院時の歩行不安定」との家族意見から歩行器を導入するなど、出来ることは即実行している。	コロナ禍により面会制限中ではあるが、いち早くWeb面会を導入する等、利用者・家族の便を図っている。家族からの電話取り次ぎに関し、改善を希望する声がある。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議を開催し各入所者の状況の把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員や利用者の声を聴くよう努めている。	ユニット会議の他、日常業務の中でも職員の意見や提案を聞いており、職員の定着率は高い。ホームイベントなどに職員の提案が多く、コロナ禍の中ではあるが、バイキングやリモート運動会などが実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や労働時間については、管理者と事務で管理し把握している。給与規程等を定め、これに沿った算定も行っている。職員からの希望休等の希望に沿えるように調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者に対しての対応や声掛け、介助等観察し力量の把握に努めている。定期的に施設内、外部研修に参加し学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加している。今後、イベントや勉強会に参加し同業者との交流を図り、情報交換等でサービス向上に繋げていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に本人や家族の意向等傾聴している。入所後も日常生活を安心して過ごして頂けるよう、普段より利用者とコミュニケーションを図り傾聴しできる限り要望に沿った支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安に感じている事、要望に耳を傾け、家族の立場を理解し安心して頂ける対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、特養等必要なサービスの検討も含めた対応をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者により出来ることの違いはあるが、食事の盛り付けやたみ物、床掃除等の出来ることを依頼し、役割を持つことで生きがいに思ってもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や体調等の変化があった時には都度家族に連絡している。また、毎月写真をのせて月ごとの様子を記入した通信を送っている。家族と情報を共有し信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルスの関係で面会が難しくなっているが、対面面会やweb面会を活用し家族や馴染みの人等会話を楽しく頂く環境を作っている。	面会自粛の中、全国初のWeb面会を実施している。友人や馴染みの薬局店員の来訪など、玄関先での面会を継続している。居室にミシンや編み物などを置き、趣味や生活習慣の継続支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や事情を把握し仲の良い方との席の配慮を行い、場合により職員が介入し生活していくうえで少しでもストレスの軽減ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方に対し、相談等あれば傾聴し対応しているが、積極的なフォロー等できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で全ての希望、意向を実施することは難しいが、できる限りの中で職員同士共有し検討から実施に繋げている。	居室担当制を導入し、利用者が一番の理解者として月1回は利用者の思い・要望を叶える「月1プロジェクト」に取り組んでいる。自身の思いを发出できる利用者が多く、利用者の思い・要望の実現に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時に本人や家族から話を聞き、入所後も本人、家族等から話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活のペースを把握し支援している。また、毎日の状態をバイタル測定やコミュニケーションを通し把握している。残存機能を活かしてできる事は手伝って頂くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり良い暮らしができるように職員間で会議等話し合い話し合い介護計画に反映させているが、家族の意向がなかなか聞けず話し合いの結果をお伝えしている現状である。	居室担当者が毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに計画作成担当者が再アセスメントをして、職員参加の担当者会議で見直しをしている。状態や意向の変化など、利用者の個性を重視した計画作成に繋げている。	意向の確認はされているが、サービス担当者会議に家族参加が得られていない。家族面会時等を利用し、家族も参加してサービス担当者会議を実施する工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、連絡帳を活用し職員間で共有し、状態の変化等あれば会議での話し合いで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ配慮し柔軟な支援、サービスを行い、家族にも協力して頂き支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルスの影響で外出がでず、地域のボランティアもなく、最近では地域での交流場面がなく楽しめれていない現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかり医があるが、以前からのかかり医で希望があれば施設のかかり医以外の場所での受診で対応している。希望があれば歯科往診も行っている。	協力医・かかりつけ医・専門科を問わず、通院はホームで対応できる体制がある。今年11月から、福祉施設の「オンライン診療実証試験施設」としての参加が決まっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専従の看護師はいませんが、同施設内に併設している看護師に相談し様子を見てもらったり、アドバイスや知識を教えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には早期に退院できるように病院からの情報をお聞きし家族、病院と連携をとっている。尚、コロナウイルスの影響でお見舞いに行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に救急対応、終末期の確認をとっている。本人の状態の変化が見られた時はその都度早期にご家族と話し合い事業所で出来ることを支援していく。併設している特養とも連携を図っている。家族の希望があれば看取りの対応を行っている。	契約時に重度化指針を説明し、重度化に伴い家族と話し合って支援方針を決めている。看取りの条件を明確に示し、併設施設とも連携した支援に取り組んでいる。看取り事例は数件であるが、OJTを含めユニット会議の研修テーマとして知識習得に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的に行っており参加している他、急変時や事故等のマニュアルを作成し全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、そのうち1回は消防署の指導を受け施設全体で避難訓練を行っている。夜間を想定した図面上での訓練も1回行っている。	年2回(1回は消防立会い)、複合施設全体で避難訓練を実施している。夜間想定は机上訓練として手順の確認を行っている。備蓄は1週間程度別メニューでの食材を保管している。停電対策は今後の課題である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し失礼のないような声替えを心掛け、分かりやすい言葉や表現を使用したり、適度な距離感を持つようにしている。居室やトイレに入る際にはノックをし、利用者がフロア等に居る時には、訪室させて頂くよう声掛けを行っている。	接遇や権利擁護、プライバシー保護などの年間研修計画がある。入室時のノック、排泄・入浴介助時の羞恥心への配慮、声掛けや言葉遣いなど、親しい仲でも年長者として尊厳を持って接するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より気楽に希望等言えるような環境や関係を作っている。また、会話の中から希望等発見するように努めている。話をする機会を待つ頂くこともあるが、時間を作り傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の過ごし方があるが、利用者の希望があれば、食事時間の変更、入浴時間や別日の変更、その日の気分や体調、希望等にできる限り沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備の際に、利用者と一緒に着替える好みの服を選んだり、毎月の理容でパーマや髪を染め込まれている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで食事の準備をしている際に、盛り付けを利用者に依頼している。おやつレクや食事レクでは利用者と一緒に食材を切ったり盛り付ける等楽しませている。	栄養面も考慮して配食サービスを利用している。月1回の外食レクは中断しているが、ホーム内でバーベキューなどの食事レクやおやつレクを行い、利用者の好きな食べ物を一緒に作って楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量の記録を行い水分は1日1500mlを目標に何種類かの飲み物を用意し摂取して頂いている。食事は利用者により形状を変え安全に食べて頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診の先生にアドバイスをもらい、毎食後、口腔ケアを促し、一人ひとりの状態に合わせた歯ブラシや歯間ブラシ、口腔ジェル等を使用し介助を行っている。夕食後は義歯のある方は洗浄剤を使用し預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、間隔を記録の中で把握しADLに応じた介助を行い、トイレへの誘導や声掛け等を行っている。利用者によりパットの大きさを変え、その人に合ったパット等を使用し自立に向けた支援を行っている。	「オムツO活動」を行い、見守りや利用者毎の排泄パターンによる声掛け・誘導で、トイレでの排泄を支援している。職員間で情報共有し、夜間のポータブルトイレ利用等、その人に合った支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	人により定期的の下剤等服用しているが、自然排便ができるように、水分量、体操や散歩等促し取り組んでいる。起床時にはイオンサポートを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、ゆずやしょうぶ湯等楽しませておる。また、個々のペースや時間、利用者の好みの温度を把握している。また、ADLに合わせた浴槽の対応をしている。体調不良や拒否等あれば別日や清拭対応を行っている。	入浴は週2回とし、拒否の際には無理強いわせずに声掛けする職員や日にちを変えて入浴を促している。併設特養と共用の特殊浴槽を利用することも可能である。季節湯や入浴剤も利用し、ゆっくり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動を促し、生活のリズムを作るよう支援している。昼夜逆転に気を付け日中も居室で休んで頂けるよう希望に沿った支援を行い、快適な空調の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が常に把握できるように個人ファイル保管してある。また、変更があれば連絡帳の活用し共有している。服薬の際は誤薬に気を付け職員同士確認しあい服用の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいを持って頂けるように、個々にできる作業を依頼し役割を持って頂いている。また、毎日行うレクの充実を図り気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの外出希望はできる限り浴えるよう職員同士共有し支援している。現在はコロナウイルスの影響で外出ができていないが、施設周辺の散歩は積極的に行っている。	外出自粛の中、体調や天候を考慮しながら日課の複合施設周辺の散歩を継続している。個別支援での外食や買い物、全員での花見や紅葉狩り、家族協力を得ての美容院への外出など、時期が来れば積極的に出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば自己にて管理して頂いている。外出の際は預かっている財布をお渡しし、お金を払って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由にやり取りをされてみえる。家族と連絡がしたい等の希望があれば電話で話したり、現在はweb面会を活用し会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者により不快感や混乱を招くような作品に配慮し、フロアや廊下等の共有の空間に季節感を感じて頂ける様に飾りや作品を利用者として作成し飾り利用者と一緒に見たり話を楽しまれている。	毎月、季節をテーマに利用者と職員が共同制作した作品を壁面に飾っている。リビングや廊下はゆったりとした間隔を確保し、利用者の安全にも配慮している。日中は利用者同士がゲームをしたり、カラオケやフラワーアレンジメントなどのレクを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれないよう気の合う方との席の配慮を行い談笑して頂ける空間作りをしている。フロアにはソファを置き落ち着いてテレビや話ができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により使い慣れたベットや家具を持ち参して頂く他、家族写真や手作りの物、仏壇等設置し居心地の良い空間づくりに努めている。	居室にはベッド・タンス・エアコン・洗面台が備え付けられており、利用者はテレビや椅子などの使い慣れた物を持ち込んでいる。パソコンでゲームをしたり編み物をしたりと、自分の時間を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに分かりやすい様に表示している。フロアや廊下には安全に移動ができるように不要な物は置かない様環境整備に努めている。利用者の残存機能を活かした介助を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ユニット内での会議で介護計画書を見直し話し合うが、ご家族を含めた担当者会議ができていない。	担当者会議を実施しご家族を含み介護計画書を作成していく。	ご家族と連携をとり、面会時等を利用し担当者会議を実施しより良い介護計画書を作成する。	12ヶ月
2	10	管理者がご家族からの電話やメールに対し取り次げない時に、対応が遅くなる事がある。	電話やメールにできる限り素早く対応できるようにする。	職員と連携をとり、ご家族からの連絡があった報告を受ける他、内容により職員でも対応できるよう努めていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

事業所名 グループホーム なごみの郷

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/> ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/> ⑤その他()